

喜志西遺跡

富田林市遺跡調査会報告13

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1997年12月29日

調査地 大阪府富田林市喜志町三丁目972-2

調査原因 店舗付共同住宅建設に伴う

緊急発掘調査

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当者 平方扶左子・田中正利

調査面積 103m²

調査期間 1997年11月6日～12月29日

はじめに

喜志西遺跡は、富田林市の北端部に位置し、近鉄長野線喜志駅の東西に広がる、弥生時代から中世にかけての遺跡です。1982年に近鉄長野線喜志駅西側の駅前整備事業に伴う試掘調査によって発

見され、その後も喜志駅周辺で住宅などの建て替え伴って発掘調査が多く行われてきました。これまでの調査で、喜志駅の東側で弥生時代中期の方形周溝墓や壺棺墓が見つかっており、遺跡の北東にある喜志遺跡の墓域ではないかと考えています。また、弥生時代から飛鳥時代にかけての自然流路、古墳時代の溝や土坑などが確認されています。

今回の調査地は、1993年に富田林市教育委員会、大阪府教育委員会が調査を行ったすぐ隣を建物部分について、事業主である山村友良氏の協力を得て行いました。

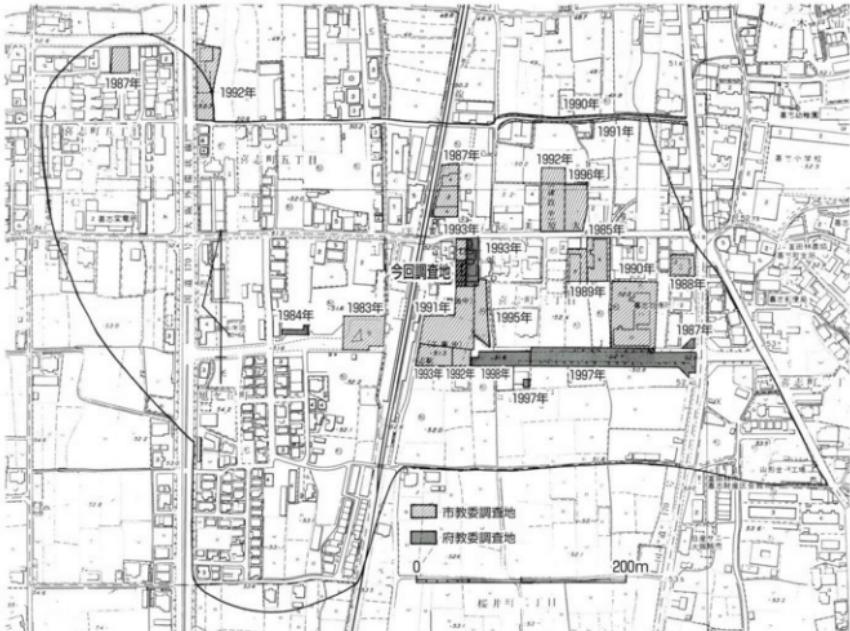


図1 喜志西遺跡調査位置図

地形と層序

調査地は、近鉄長野線喜志駅の東側にあります。発掘調査は南北約26m、東西約1.5mのトレンチを2本（西側：第1トレンチ、東側：第2トレンチ）設定して調査を行いました。調査は水田面までを機械掘削で行い、それ以下は人力によって掘削、精査を行いました。

層序は盛土の下に水田面があり、この下に2層の包含層が確認されました。水田面は第1トレンチで3面、第2トレンチで5面あり、包含層は各トレンチの南側で確認できることから、ここでの地形の傾斜が東側と南側に緩やかに下がっていることがわかります。これらを取り除くと、現況から約0.8~1.1m下の所で地山面に達します。遺構はすべてこの地山面で検出しました。

遺構と遺物（図2）

今回の調査では、方形周溝墓1、溝1、土坑6、ピット22を検出しました。

方形周溝墓

調査区北側で検出されました。確認できたのは、南側周溝、南東コーナー、北側周溝、北東コーナー、東側周溝です。墳丘は後世の削平を受けており、墳丘上幅で検出長南北約7.8m、東西約5.3m、墳丘下幅で検出長南北約9.0m、東西約5.5mです。東側周溝と南側周溝は幅約2.0m、北側周溝は検出幅で約4.8mを測ります。周溝内の埋土は3層に分層でき、第1層・黒褐色粘質土、第2層・暗褐灰色砂質土、第3層・暗褐灰色粘質土です。第2層は北側周溝でのみ確認できます。

埋葬施設として主体部を1基、墳丘の中央部で検出しました。長方形の堀方で、幅約0.6m、長さ1.2m以上あります。埋土は暗灰黄色粘質土です。木棺の位置は平面では確認できませんでしたが、調査区の西側断面の観察から木棺の幅は約0.5mだったようです。木棺内の埋土は暗黄灰褐色粘質土です。

遺物としては北側周溝内より供獻土器と思われる弥生土器が出土しています（図4）。土器は地山から浮いた状態で出土しており、原位置をとどめ

ていません。弥生時代中期中頃の遺物と考えられます。

溝1

第1トレンチ北側で検出しました。東西方向の溝で、長さ約1.5m分を検出しました。幅は約0.45m、深さは約0.09mです。埋土は濁灰黃褐色粘質土です。遺物は瓦器が出土しました。

土坑1

第1トレンチ南端で検出しました。検出規模は長径約1.83m×短径約1.03m、形状は不整形、深さは0.04mで埋土は濁灰黃褐色粘質土に濁褐黃灰色粘質土がブロック状に混じっています。遺物は土師器・サヌカイトが出土しました。

土坑2

第1トレンチ南側で検出しました。検出規模は長径約1.27m×短径約0.54m、形状は不整形、深さは0.10mで埋土は濁灰黃褐色粘質土に濁褐灰色粘質土がブロック状に混じっています。遺物は出土していません。

土坑3

第トレンチ南側で検出しました。検出規模は長径約1.21m×短径約0.78m、形状は不整形、深さは0.07mで埋土は濁灰黃褐色粘質土に濁褐灰色粘質土がブロック状に混じっています。遺物は出土していません。

土坑4

第1トレンチ中央部で検出しました。検出規模は長径約1.02m×短径約0.52m、形状は不整形、深さは0.09mで埋土は暗褐灰色粘質土です。遺物は出土していません。

土坑5

第1トレンチ中央部で検出しました。検出規模は東西約1.32m×東西約1.53m、形状は不整形、深さは0.09mで埋土は暗褐灰色粘質土です。遺物は出土していません。

土坑6

第2トレンチ中央部で検出しました。検出規模は東西約0.53m×南北約1.38m、形状は不整形、深さは0.63mで、埋土は暗灰褐色粘質土に暗褐灰色粘質土がブロック状に混じっています。遺物は出土

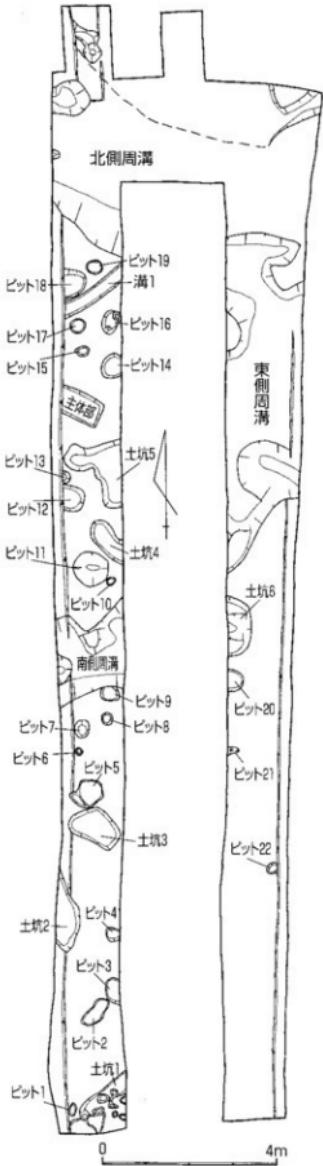


図2 違横平面図

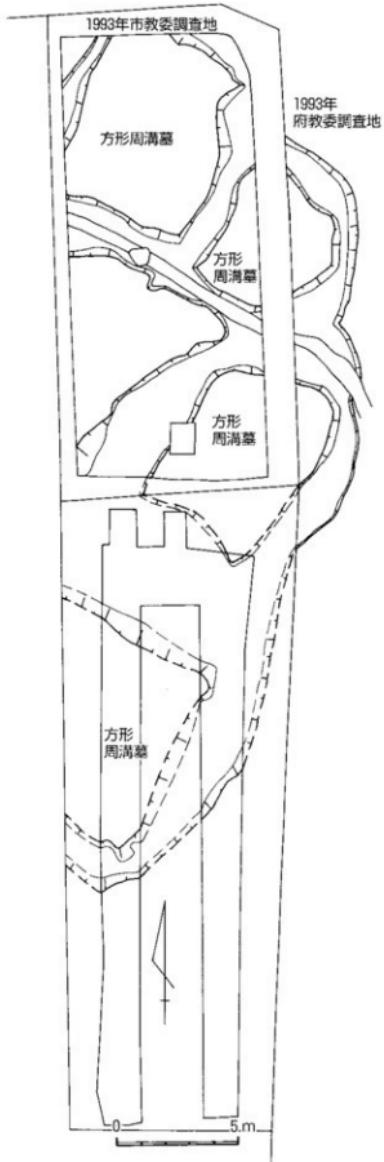


図3 方形周溝墓復元図

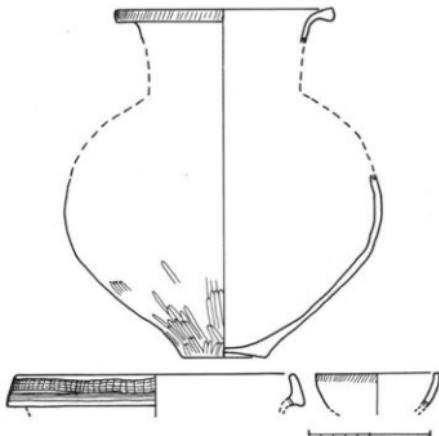


図4 方形周溝墓 周溝内出土遺物

していません。

ピット3

第1トレーナーを中心大小22個のピットを検出されました。がピットから遺物は出土しておらず、時期などは不明です。

まとめ（図3）

今回の調査区は1993年の市教委調査区と、府教委調査区の続きを調査しました。前回の調査で合計3基の方形周溝墓が確認されています。これらの



調査区全景写真（北から）

方形周溝墓は周溝を共有する形で検出されています。今回の調査でも方形周溝墓を1基確認することができました。北側周溝は1993年度市教委が調査した方形周溝墓の周溝と共有しており、断面から今回検出された方形周溝墓が1993年のものより古くなるようです。この方形周溝墓より南側ではこれまでに弥生時代の墓が見つかっておらず、今回の調査地が喜志駅周辺にある弥生時代の墓域の南限と考えられます。

ふりがな	きしにしいせき						
書名	喜志西遺跡						
副書名	富田林市遺跡調査会報告						
巻次	13						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著書名	平方扶左子・田中正利						
編集機関	富田林市遺跡調査会						
所在地	〒584 大阪府富田林市常盤町1番1号	0721-25-1000					
発行年月日	西暦1998年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 °'\"	東経 °'\"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
喜志西遺跡	大阪府富田林市 喜志町三丁目 972-2他	27214	34° 31' 12"	135° 36' 37"	1997.11.6 1997.11.20	103	店舗付 共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
喜志西遺跡	墓域・その他	弥生時代～中世	方形周溝墓・ 土坑・ピット	弥生土器・土師器・ 瓦器・サヌカイト			